

1. 報告要旨

(1)トークセッション「未来の種を、若狭の土に蒔こう」

第一部は谷崎氏と実行委員会 2 名によるトークを行った。谷崎氏より、アースデイが始まった経緯や、時代によって自然も社会環境も変わり、アースデイの果たす役割も変わっている事を話して頂いた。また谷崎氏から見た若狭エリアの魅力や可能性、会場の縄文ロマンパークは争いのなかった縄文時代を通じて、持続可能な社会について考える良い場所とヒントを頂き、来場者が地域の未来を考えるきっかけとなった。

第二部では、谷崎氏と、NPO 法人トランジション・ジャパンの筒井氏、POWJAPAN の島本氏をゲストにトークセッションを開催。複雑化した社会課題の話を聞いた後に、筒井氏と島本氏から、個人や地域レベルで出来ることを紹介して頂き、谷崎氏が推奨する「ワールドシフト」という世界的なビジョンと、ローカルでの活動が繋がり、「大きな未来も、日々の小さな実践から始まる」という希望あるメッセージが共有された。出展者や来場者、関係者など約 100 名がトークセッションに参加した。



(2)ワールドシフトへの記入

本部テントにて、ワールドシフト宣言コーナーを設置。来場者やトークセッション参加者が記入し、用紙を他の来場者にも見えるように展示した。『経済性と効率の追求で分断が進んだ世界。地域外の資源に頼り、又、外へ資源を流出→地域の人々が手を取り合い、経済資源の地域内循環により持続可能な暮らしの実現』『ビジネス優先で起こされる環境破壊の世界→持続可能な美しい世界』など、一人一人が若狭地域や自分の居住地で出来る事を記入した

(3)多様な出店

オーガニック食品や若狭エリアの特産品、自然体験ワークショップなど、23 の団体・事業者が出店した。単なる売買の場でなく、作り手と消費者が環境や未来について語り合う交流の場として機能した。偶然会場に来た人の立ち寄りもあり、これまで環境イベントに馴染みのなかった層にも、楽しみながら未来を考えるきっかけを提供できた。天候にも恵まれ、家族連れやワークショップ参加者など賑わいのある空間となった。



2. 成果物

1. イベント当日の来場者 1,200 名、ボランティア参加者 7 名、出店ほか参加団体 23 団体、行動宣言参加者 176 名ほか
2. イベントの [Web・SNS](#) での情報リーチ数(インプレッション):延べ 3,800 人
3. 「[地球環境考えよう 『アースデイ若狭』小浜であすプレ催し](#)」福井新聞(2025.7.10)